

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
同連絡先	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 0120-094-777 (通話料無料)
公告方法	電子公告 ホームページアドレス (http://www.omltd.co.jp)

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることになっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんので、ご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。

O-M Ltd.

大阪市淀川区宮原三丁目5番24号（新大阪第一生命ビル）
TEL (06) 6350-1200（代表） 〒532-0003

第87期 年次報告書

平成21年4月1日～平成22年3月31日



株式会社 オーエム製作所

第四次中期経営計画のもと、変革の眼を海外に広げて

敏速かつ果敢に事業展開を進めてまいります。



取締役社長
山村 英司

株主のみなさまにおかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

このたび第87期（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）年次報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当期の業績について

当連結会計年度におけるわが国経済は、中国を中心とする新興国の景気拡大による外需や、政府の経済対策の効果などから、企業収益に回復の兆しが見えますものの、設備投資の減少、雇用情勢、個人消費の悪化など依然として厳しい状況で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループは当期を3年目とする第三次中期経営計画（AGGRESSIVE-21Ⅲ）に基づき大きく変化させることへの迅速な挑戦をスローガンに、ユーザーニーズに対応した新製品の開発、グループ企業の再編による生産性の向上、コスト競争力の強化など、CS（顧客満足）を基盤とした事業展開を推進してまいりました。

しかしながら当社グループが属する機械業界におきま

でも、設備投資の見直し、凍結、また厳しい価格競争など、受注環境は非常に厳しく、受注高は55億1千万円、受注残高は59億3千5百万円となり、大きく計画を下回る結果となりました。

この結果、当連結会計年度の実績は、売上高115億4千7百万円（前年同期比32.2%減）、営業利益21億1千5百万円（前年同期比46.5%減）、経常利益21億4千1百万円（前年同期比45.7%減）、当期純利益10億6千8百万円（前年同期比53.1%減）となりました。

当社の利益配分につきましては、配当の維持・向上ならびに内部留保の充実を総合的に勘案し、実施いたします。剰余金の配分につきましては、当期の業績を基本とし、連結配当性向25%を目処に、30%を目標として継続的に実施してまいります。内部留保につきましては、新規事業の開発・育成に重点的に投資するとともに、中長期的な成長のための積極的な設備投資、研究開発に有効活用し、企業価値の向上に取り組みます。

これにより、当期の期末配当金につきましては、1株につき10円とさせていただきます。

今後の課題と見通しについて

次期の見通しにつきまして、景気は緩やかに回復しつつありますが、その足どりは重く、本格回復には時間がかかるものと思われます。当社グループにおきましても、顧客の設備投資意欲の減退、企業間競争の激化など受注環境は厳しいものと思われます。

そのような環境のなか、当社グループはこの厳しい局面に立ち向かうべく、平成22年度を初年度とする第四次中期経営計画（AGGRESSIVE-21Ⅳ）を策定いたしました。平成23年3月期事業計画は減収減益の見込みではありますが、当社グループはここをボトムと考え、平成24年3月期からの業績回復に向けて中期経営計画の施策に取り組み、企業価値の向上を目指してまいります。

株主のみなさまには、今後とも引き続き一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

第四次中期経営計画（AGGRESSIVE-21Ⅳ）

－平成22年4月～平成25年3月

経営理念

私たちは生産設備と技術サービスの提供を通じて顧客・社会に貢献できる企業を目指します。

ビジョン

- 海外での事業（調達・生産・販売）を推進し、グローバル市場で勝ち抜く
- 「モノづくり力」を磨き、高品質な製品を提供し、企業価値の向上を目指す
- コンプライアンス重視の経営

数値目標（平成25年3月期）

連結売上高 15,000百万円
 連結営業利益 2,700百万円
 連結当期純利益 1,570百万円

株主への還元方針

連結配当性向 30%目標

経営施策

海外展開の推進

- 海外生産、海外調達を推進し中国および周辺国で生産拠点の立上げを目指す
- 海外売上高 最終年度 連結売上高の30%を目標とする
 中国、韓国、インドをはじめとするアジア地域の成長新興国をターゲット
 機能を絞った汎用機や、原子力関連、インフラ関連向けに超大型立旋盤を拡販

営業戦略

- ユーザーのグローバル化に対応する海外販売の推進
- ラインエンジニアリングを提案しライン受注の拡大／提案型営業の推進

製品開発の強化

- 立旋盤のトップメーカーとして入門機から超大型立旋盤までフルライン化
- 新規マーケット（成長分野、海外市場）へ対応する製品開発の推進

モノづくり力の強化

- 品質第一主義
- 技術・技能の伝承推進

コンプライアンス重視の企業活動

- 内部統制制度を実践し、社員一人一人へ意識付ける

一般機械の 製造販売事業

自動機械部門は、食品・製菓業界、日用品業界、ならびに医薬品業界向けには需要の伸びているジェネリックメーカーを中心にカーター、ケーサーの拡販に注力いたしました。また商品力向上に向け、品質向上やコスト競争力を高める為、ムダ・ロスの排除や原価管理の徹底などに取り組みましたが、設備投資の冷え込みや、厳しい価格競争などが影響し、売上高・利益とも前年同期に比べ落ち込む結果となりました。

工作機械部門は、納期延期等に対応する為、生産調整に追われましたが、豊富な受注残に支えられ、比較的生産は順調に推移いたしました。受注につきましては、多様化するユーザーニーズに応える為、サイズバリエーションを豊富にしたNeo-EXシリーズ（テーブル径1400mm～2800mm9機種8テーブル）を開発し、拡販に取り組みました。しかしながら、原子力関連や、重電など世界的なCO₂排出量抑制に向けた設備投資関連からの大型機の引き合いは堅調に推移いたしましたものの、造船、航空機、建設機械業界の設備投資意欲が低く、受注は低調に終わりました。海外での販売につきましては、中国、韓国をはじめとする東アジア諸国等、景気拡大が続く地域を中心に拡販に取り組みましたが、海外競合メーカーとの価格競争が厳しく、受注は低調に終わりました。

また、生産効率化に向けて、平成21年10月1日付でオーエム技研(株)の事業は、当社宍道工場へ集約し再編を図りました。なお、平成22年4月1日付でオーエムエンジニアリング(株)の事業についても当社長岡工場へ集約し、加工部門の吸収や組立部門の再編を図り、事業体制の組み換えを行っております。

最後にモノづくりの基本である品質の向上に向けて、品質管理部門を設置し、クレームの分析、歯止めなど徹底した分析とその実践により、クレーム撲滅や従業員の技能の底上げを全社的に推進いたしました。



自動機械 VCRC



工作機械 VTLex1600M

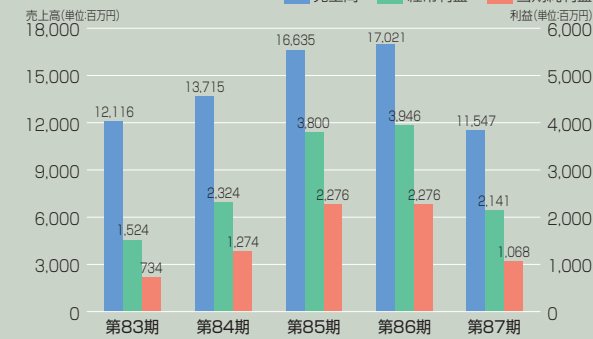
鋳造品の 製造販売事業

鋳造品の製造販売事業は、長引く工作機械業界の低迷などにより受注が大きく落ち込み、厳しい経営環境で推移いたしました。抜本的な事業構造改善や、固定費の削減にも取り組みましたが、赤字を計上する結果となりました。

その他事業

その他事業は、ガンソインスタンド、ゴルフ練習場等による収入を計上しました。

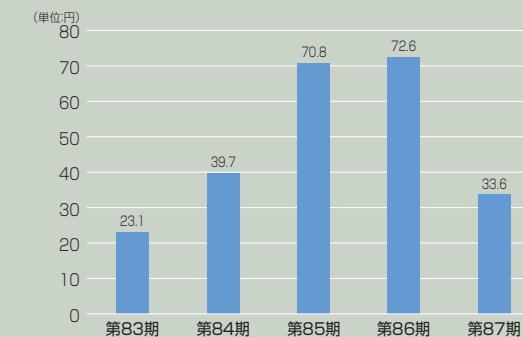
売上高・利益推移



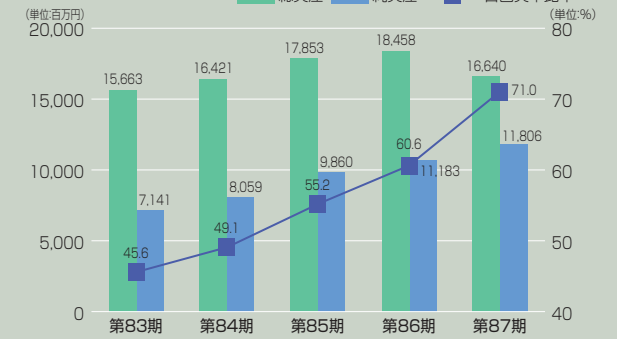
売上高経常利益率



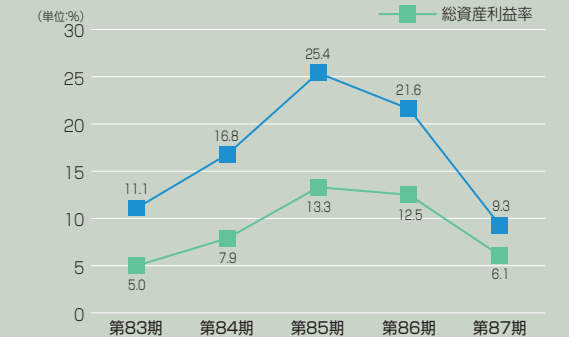
1株当たり当期純利益



自己資本推移



自己資本利益率・総資産利益率



1株当たり純資産



連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当期 平成22年3月31日現在	前期 平成21年3月31日現在
【資産の部】		
流動資産	12,044	14,147
現金及び預金	6,768	6,854
受取手形及び売掛金	3,634	4,796
商品及び製品	176	353
仕掛品	958	1,640
原材料及び貯蔵品	60	116
繰延税金資産	285	360
その他	172	43
貸倒引当金	△ 11	△ 17
固定資産	4,596	4,310
有形固定資産	3,066	3,191
建物及び構築物	1,366	1,475
機械装置及び運搬具	1,038	778
土地	520	520
リース資産	47	53
建設仮勘定	31	283
その他	62	80
無形固定資産	46	33
ソフトウェア	46	28
その他	0	5
投資その他の資産	1,482	1,085
投資有価証券	579	555
繰延税金資産	—	94
敷金及び保証金	87	92
長期預金	800	300
その他	30	45
貸倒引当金	△ 14	△ 2
資産合計	16,640	18,458

POINT

①自己資本比率

60.6%→71.0% 10.4ポイント上昇しました。

②売上高

景気後退による設備投資の低迷により売上高は5,474百万円(32.2%)減少しました。

	当期 平成22年3月31日現在	前期 平成21年3月31日現在
【負債の部】		
流動負債	4,586	7,038
支払手形及び買掛金	1,396	2,663
短期借入金	1,765	1,765
リース債務	15	13
未払法人税等	22	701
未払費用	277	223
賞与引当金	273	408
製品保証引当金	103	76
その他	733	1,187
固定負債	247	236
リース債務	34	42
退職給付引当金	131	86
役員退職慰労引当金	48	69
繰延税金負債	32	—
その他	—	37
負債合計	4,833	7,274
【純資産の部】		
株主資本	11,688	11,097
資本金	1,660	1,660
資本剰余金	301	301
利益剰余金	10,202	9,610
自己株式	△ 475	△ 474
評価・換算差額等	118	85
その他有価証券評価差額金	120	88
為替換算調整勘定	△ 2	△ 2
①純資産合計	11,806	11,183
負債・純資産合計	16,640	18,458

③経常利益

売上減の状況下、内製化推進や固定費削減などに取り組み、経常利益は2,141百万円計上し、売上高経常利益率も18.5%（前年同期比4.7ポイント減）となりました。

連結損益計算書

(単位：百万円)

	当期 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)	前期 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)
②売上高	11,547	17,021
売上原価	7,397	10,898
売上総利益	4,149	6,123
販売費及び一般管理費	2,034	2,167
営業利益	2,115	3,955
営業外収益	79	49
営業外費用	53	59
③経常利益	2,141	3,946
特別利益	15	13
特別損失	271	111
税金等調整前当期純利益	1,885	3,848
法人税、住民税及び事業税	636	1,560
法人税等調整額	180	11
当期純利益	1,068	2,276

連結株主資本等変動計算書 (平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本					評価・換算差額等			純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計	
平成21年3月31日 残高	1,660	301	9,610	△ 474	11,097	88	△ 2	85	11,183
連結会計年度中の変動額									
剰余金の配当			△ 476		△ 476				△ 476
当期純利益			1,068		1,068				1,068
自己株式の取得				△ 1	△ 1				△ 1
自己株式の処分		0		0	0				0
株主資本以外の項目の連結会計 年度中の変動額（純額）					—	32	0	32	32
連結会計年度中の変動額合計	—	0	591	△ 0	591	32	0	32	623
平成22年3月31日 残高	1,660	301	10,202	△ 475	11,688	120	△ 2	118	11,806

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	当期 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)	前期 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)
④営業活動によるキャッシュ・フロー	1,493	2,846
⑤投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,089	△ 1,121
⑥財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 490	△ 856
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	△ 4
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△ 86	863
現金及び現金同等物の期首残高	5,401	4,537
現金及び現金同等物の期末残高	5,315	5,401

POINT

④営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益1,885百万円、売上債権の減少1,162百万円がキャッシュ・インとなり、一方で仕入債務の減少1,266百万円、法人税等の支払額1,443百万円がキャッシュ・アウトとなり、営業活動によるキャッシュ・フローは1,493百万円のキャッシュ・インとなりました。

⑤投資活動によるキャッシュ・フロー

電気炉他の有形固定資産の取得581百万円、定期預金預入500百万円がキャッシュ・アウトとなり、投資活動によるキャッシュ・フローは、1,089百万円のキャッシュ・アウトとなりました。

⑥財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払額475百万円がキャッシュ・アウトとなり、財務活動によるキャッシュ・フローは、490百万円のキャッシュ・アウトとなりました。

貸借対照表

(単位：百万円)

	当期 平成22年3月31日現在	前期 平成21年3月31日現在
流動資産	11,500	13,111
現金及び預金	6,687	6,584
受取手形及び売掛金	3,306	4,369
棚卸資産	1,066	1,757
その他	440	398
固定資産	4,335	3,917
有形固定資産	2,690	2,700
無形固定資産	46	33
投資その他の資産	1,597	1,184
投資有価証券	461	431
その他	1,135	752
資産合計	15,836	17,029
流動負債	4,890	6,906
支払手形及び買掛金	1,212	2,467
短期借入金	2,348	2,105
賞与引当金	216	295
製品保証引当金	103	76
その他	1,010	1,962
固定負債	280	236
負債合計	5,171	7,142
株主資本	10,546	9,799
資本金	1,660	1,660
資本剰余金	301	301
利益剰余金	9,060	8,312
自己株式	△ 475	△ 474
評価・換算差額等	118	86
その他有価証券評価差額金	118	86
純資産合計	10,665	9,886
負債・純資産合計	15,836	17,029

株主資本等変動計算書 (平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本											評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	純資産 合計	
	資本金	資本剰余金			利益 準備金	利益剰余金			自己 株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金			
		資本 準備金	その 他有 価証券 評価差額金	資本剰余金 合計		特別償却準備金	別途積立金	繰越利益剰余金						利益剰余金 合計
平成21年3月31日 残高	1,660	301	—	301	394	—	5,500	2,418	8,312	△474	9,799	86	86	9,886
事業年度中の変動額	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
剰余金の配当	—	—	—	—	—	—	—	△476	△476	—	△476	—	—	△476
別途積立金の積立	—	—	—	—	—	—	1,900	—	—	—	—	—	—	—
特別償却準備金の積立	—	—	—	—	—	—	145	△145	—	—	—	—	—	—
当期純利益	—	—	—	—	—	—	—	1,224	1,224	—	1,224	—	—	1,224
自己株式の取得	—	—	—	—	—	—	—	—	—	△1	△1	—	—	△1
自己株式の処分	—	—	0	0	—	—	—	—	—	0	0	—	—	0
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	31	31	31
事業年度中の変動額合計	—	—	0	0	—	145	1,900	△1,297	747	△0	746	31	31	778
平成22年3月31日 残高	1,660	301	0	301	394	145	7,400	1,120	9,060	△475	10,546	118	118	10,665

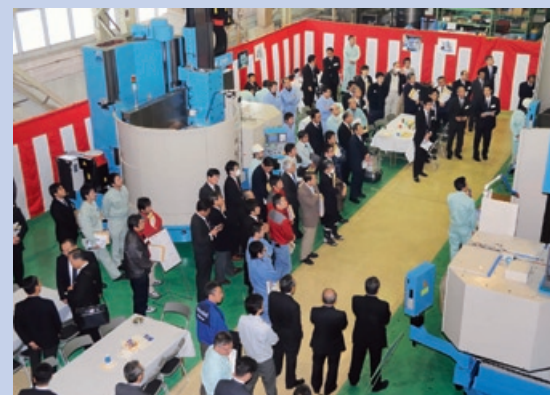
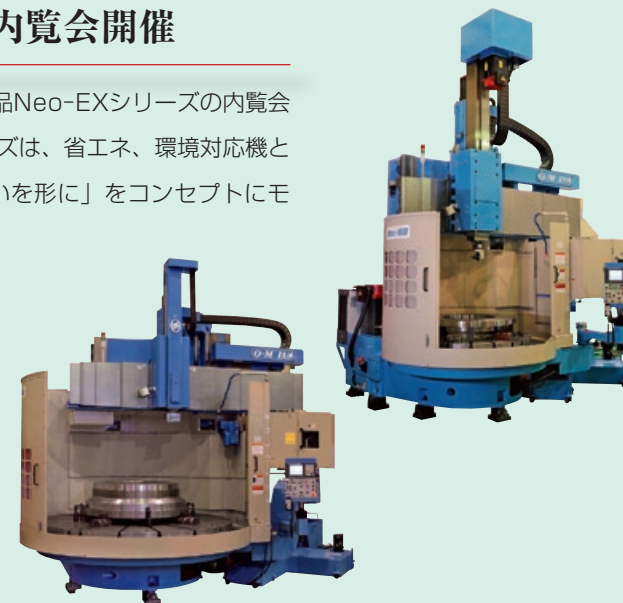
損益計算書

(単位：百万円)

	当期 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)	前期 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)
売上高	10,551	14,667
売上原価	6,582	9,159
売上総利益	3,968	5,507
販売費及び一般管理費	1,778	1,834
営業利益	2,190	3,672
営業外収益	147	262
営業外費用	62	64
経常利益	2,275	3,870
特別利益	—	8
特別損失	242	44
税引前当期純利益	2,032	3,834
法人税、住民税及び事業税	663	1,465
法人税等調整額	145	2
当期純利益	1,224	2,366

新製品 Neo-EXシリーズ内覧会開催

1月22日～23日に長岡工場において新製品Neo-EXシリーズの内覧会を開催いたしました。新製品Neo-EXシリーズは、省エネ、環境対応機として好評のNeoシリーズを「お客様の欲しいを形に」をコンセプトにモデルチェンジし、省エネ・環境対応の徹底、サイズバリエーションの充実（3種類から8種類へ）、加工能力の拡大などを図りました。内覧会では、3台のNeo-EXシリーズ（Neo-22EX、Neo-28EX、Neo α-16EX）を展示し、それぞれデモ加工を行い、切削能力、加工精度を実際の目で確かめていただきました。



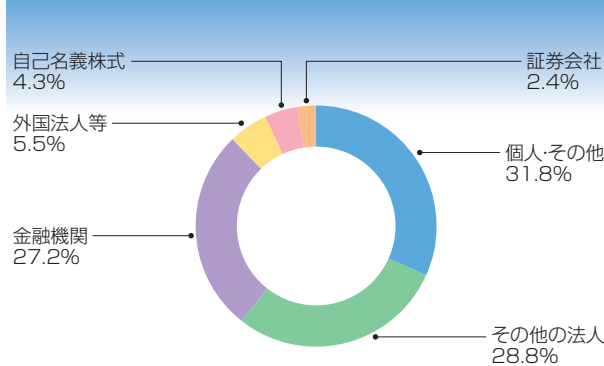
内覧会は、海外からも含め約300社、約400名と大変多くのお客様にご来場いただき、2日間とも終日活況を呈し、たくさんの引き合いをいただきました。

新製品Neo-EXシリーズは、『お客様の「欲しい」を形に！』『人にやさしく、環境にやさしい油圧レス』として、国内外市場に販売を拡大してまいります。

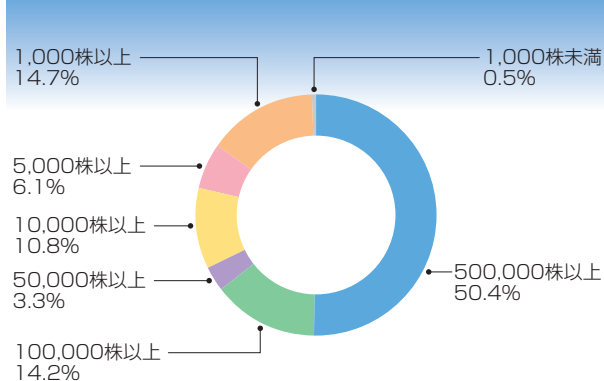
株式の状況 (平成22年3月31日現在)

発行可能株式総数	88,000,000株
発行済株式の総数	33,200,000株
株主数	4,843名

所有者別株式数分布状況 (平成22年3月31日現在)



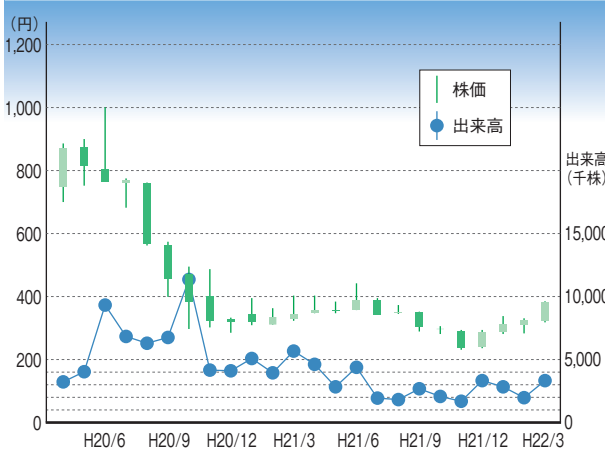
所有株数別株式数分布状況 (平成22年3月31日現在)



大株主の状況 (平成22年3月31日現在)

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
ダイワボウホールディングス株式会社	8,969	27.0
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,129	6.4
株式会社オーエム製作所	1,441	4.3
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,215	3.7
株式会社北越銀行	1,000	3.0
株式会社山陰合同銀行	1,000	3.0
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	963	2.9
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	473	1.4
オーエム協力会社持株会	461	1.4
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニーレギュラーアカウント	300	0.9

株価・売買高の推移 (平成20年4月～平成22年3月)



会社概要 (平成22年3月31日現在)

社名	株式会社オーエム製作所
英文社名	O-M Ltd.
創業	大正9年2月
設立	昭和24年7月
資本金	16億6千万円
主要な事業内容	自動機械、工作機械、その他諸機械の製造販売
従業員数	367名(連結)、250名(単体)
上場証券取引所	東京、大阪
証券コード	6213
会計監査人	新日本有限責任監査法人

役員 (平成22年3月31日現在)

取締役社長	山村英司
取締役会長	林三樹雄
常務取締役	若月博
取締役	富江登
取締役	笹倉誠
常勤監査役	品田邦夫
監査役	菅野肇
監査役	吉本隆太郎

事業所 (平成22年3月31日現在)

本社	大阪市淀川区宮原三丁目5番24号(新大阪第一生命ビル) TEL (06) 6350-1200 (代表) 〒532-0003
東京支店	東京都台東区上野一丁目10番10号(うさぎやビル) TEL (03) 3837-1271 (代表) 〒110-0005
名古屋営業所	名古屋市東区葵一丁目13番18号(サッサセンタービル) TEL (052) 930-0058 〒461-0004
播磨営業所	兵庫県加古郡播磨町南野添三丁目6番6号(JA播磨支店ビル) TEL (079) 441-1727 〒675-0151
穴道工場	島根県松江市穴道町佐々布75番地 TEL (0852) 66-0311 (代表) 〒699-0406
長岡工場	新潟県長岡市北園町2番1号 TEL (0258) 24-1550 (代表) 〒940-0014
自動機事業部サービスセンター	大阪市淀川区宮原三丁目5番24号(新大阪第一生命ビル) TEL (06) 6350-1203 〒532-0003

連結対象子会社 (平成22年3月31日現在)

- オーエム金属工業株式会社 (鋳造品の製造、販売・機械部品の加工)
- オーエム技研株式会社 (工作機械製造・産業機械製造販売)
- オーエムエンジニアリング株式会社 (機械部品の加工・機械組立)
- オムテック株式会社 (レジャー関連)
- O-M (U.S.A.), INC. (工作機械製品の営業支援)

(注) オーエム技研株式会社は平成21年10月1日付、オーエムエンジニアリング株式会社は平成22年4月1日付で、当社に事業を譲渡し、休眠会社となっております。